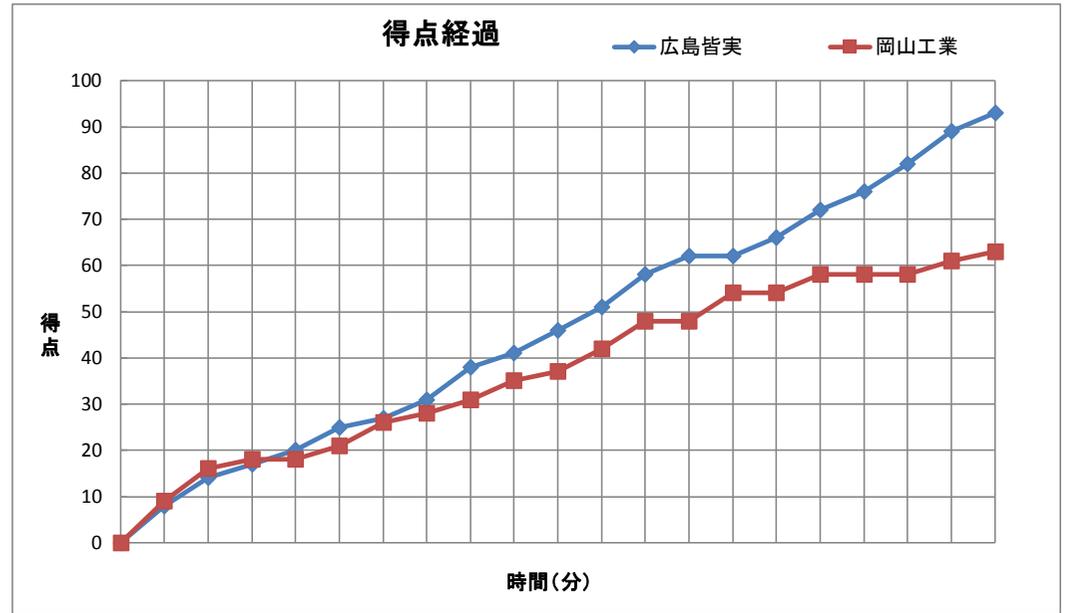




第66回中国高等学校バスケットボール選手権大会

個人トータル表

男子		令和4年6月19日		10:40 開始													
準決勝		広島県立総合体育館グリーンアリーナ		A													
◎ 広島皆実		93		63 岡山工業													
(広島県)		(岡山県)		(岡山県)													
		<table border="1"> <tr><td>25</td><td>1st</td><td>21</td></tr> <tr><td>21</td><td>2nd</td><td>16</td></tr> <tr><td>20</td><td>3rd</td><td>17</td></tr> <tr><td>27</td><td>4th</td><td>9</td></tr> </table>		25	1st	21	21	2nd	16	20	3rd	17	27	4th	9		
25	1st	21															
21	2nd	16															
20	3rd	17															
27	4th	9															
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則				
* 4	中水 元基	21	2	7	1	1	* 4	中矢 匠紀	23	4	4	3	2				
5	大江 優貴	-	-	-	-	-	5	東 龍一	-	-	-	-	-				
6	中谷 颯良	-	-	-	-	-	6	徳田 舜	6	0	3	0	2				
7	土肥 映斗	2	0	1	0	2	7	守谷 祥吾	2	0	1	0	0				
* 8	大福谷 翼	3	0	0	3	1	8	坂本 潤太	0	0	0	0	0				
9	野上 岳	-	-	-	-	-	9	金井 宥之祐	-	-	-	-	-				
* 10	小田 悠人	34	1	13	5	3	* 10	小原 拓人	4	0	2	0	1				
11	上本 起史	-	-	-	-	-	* 11	浅野 健志	8	0	4	0	1				
12	谷本 寿成	-	-	-	-	-	* 12	池野 恵太郎	16	3	3	1	4				
* 13	齊藤 拓真	4	0	2	0	2	* 13	大井 教提	4	0	2	0	2				
14	武田 璃玖	0	0	0	0	0	14	才田 惺也	-	-	-	-	-				
* 15	中村 英司	27	1	11	2	1	15	正富 颯空	-	-	-	-	-				
16	平田 貴一	0	0	0	0	0	16	筒井 優大	-	-	-	-	-				
17	石丸 陽生	0	0	0	0	0	17	藤村 洋希	-	-	-	-	-				
18	松井 颯之輔	2	0	0	2	0	18	青木 琉海	-	-	-	-	-				
コーチ	藤井 貴康					0	コーチ	岸本 哲也					0				
Aコーチ	横田 学						Aコーチ	中村 重行									
合計		93	4	34	11	10	合計		63	7	19	4	12				
主審: 柳田雅人																	
副審: 大下俊之																	
副審: 小林直樹																	



CTO	1・2P	3・4P	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	28:36	:	:	:
TeamB	17:55	:	:	:	:	:

〔戦評〕 スタート 広島皆実#4、8、10、13、15 岡山工業#4、10、11、12、13
 1Q、両チームともにハーフコートマンツーマンディフェンスで試合開始。岡山工業は、#4が3Pを決め先制すると速い展開から連続して得点を重ねていく。ハーフコートオフェンスにおいても、ドリブルスクリーンプレーやハンドオフプレーから#12がバスケットカウントを取るなど、リズム良く加点をしていく。対する広島皆実、インサイド陣が奮起する。#10、#15が1on1からの鋭いドライブインや粘り強いリバウンドショット等で確実に加点していく。広島皆実の攻守に渡るリバウンドの強さに岡山工業はファウルがかさむ苦しい展開が続く。25-21、広島皆実がリードし1Q終了。
 2Q、岡山工業が堅いディフェンスからの速攻で#4が3Pを決め、早々に逆転に成功。広島皆実も負けじと#4の3P、#15のドライブインで加点し、両チームとも一進一退の攻防を展開する。中盤、岡山工業のアウトサイドシュートがリングに嫌われた隙を広島皆実は見逃さず、持ち味の速攻で連続得点し、突き放しにかかる。ペイントエリア内での得点が多くなり、ペースをつかむ。岡山工業は#12のアウトサイドシュートや、#7のスピードに乗ったドライブインで得点をするも思うように点差は縮まらない。残り2分、岡山工業はタイムアウト。その後、岡山工業はハーフコート3-2ゾーンディフェンス、広島皆実もハーフコート1-3-1ゾーンディフェンスを展開。お互いがしっかりとディフェンスリバウンドを支配するが、広島皆実のリードは変わらず、46-37で2Q終了。
 3Q、岡山工業はマンツーマンディフェンスやゾーンディフェンスを使い分け、リズムを整えようと試みる。岡山工業の激しいディフェンスに広島皆実も加点をすることが難しく、速い展開へ繋げることが出来ない苦しい時間が続く。残り2分、広島皆実がタイムアウト。その後、両チームともオープンショットを狙っていくが、大きく展開は変わらないまま、66-54、広島皆実がリードを保ち3Q終了。
 4Q、広島皆実も開始からハーフコート1-3-1ゾーンディフェンスで大きく声を出し、プレッシャーをかけた続ける。リバウンドボールを確実に保持し、ハーフコートのオフェンスに持ち込んでいく。広島皆実も#13の勢いのある1on1から味方のチャンスを演出し、連続得点に成功。インサイド、アウトサイドともにバランス良く得点を重ね、一気に自分たちのペースを掴むことに成功する。岡山工業も#4が3Pで対抗し、粘り強くオフェンスを展開するもなかなか広島皆実の勢いを止めることができない。広島皆実も、リバウンドからの速攻を確実なものとし、得点を重ねていく。そのまま、広島皆実が大きくリードを広げ、93-63で試合終了。

戦評: 西尾友貴

記録: